

# ASBJ Newsletter



## 目次

1. 企業会計基準等の開発（2010年4月3日～2010年5月31日）
2. 企業会計基準委員会の概要（第199回～第202回）
3. IASB及びFASFに対するASBJのコメント（2010年4月1日～2010年5月31日）
4. ASBJプロジェクト計画表を更新
5. 韓国ソウル市で開催された第9回NSS会議に西川委員長が出席
6. ASBJとIASBが第11回共同会議を開催
7. 第1回ASBJオープン・セミナーを開催
8. シンガポールで開催された第4回IFRSリージョナル・ポリシー・フォーラムに西川委員長が出席
9. FASFセミナー「四半期報告書の作成要領」を開催
10. FASF理事会を開催
11. プロジェクト進捗（2010年5月31日現在）
12. お知らせ

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

## 1. 企業会計基準等の開発（2010年4月3日～2010年5月31日）

### 1) 【Final】[「中小企業の会計に関する指針」](#)の公表（2010年4月26日）

（本指針は、日本税理士会連合会、日本公認会計士協会、日本商工会議所、企業会計基準委員会が主体となって設置された「中小企業の会計に関する指針作成検討委員会」により改正されました。）

### 2) 【その他】[実務対応報告公開草案第33号（実務対応報告第5号の改正）](#)「[連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い（その1）（案）](#)」及び[実務対応報告公開草案第34号（実務対応報告第7号の改正）](#)「[連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い（その2）（案）](#)」の公表（2010年5月20日）

（コメント募集は2010年6月8日に終了しています。）

#### 【凡例】

DP：論点整理・検討状況の整理  
ED：公開草案  
Final：会計基準/適用指針等（最終）

## 2. 企業会計基準委員会の概要（第199回～第202回）

### 1) [第199回（2010年4月9日開催）](#)

- a. プロジェクト計画表の更新
- b. 平成22年度税制改正に伴う検討
- c. 排出権取引専門委員会における検討状況
- d. 金融商品専門委員会における検討状況
- e. 無形資産に係る検討
- f. 引当金に係る検討

a. 企業会計基準等の開発スケジュールを示すプロジェクト計画表の更新が決定され、4月12日に公表されました。

今後、プロジェクト計画表は、IASB/FASBの作業計画の改定を踏まえながら、適宜、更新を予定しています。

b. 今年度の税制改正で認められることとなった特定連結欠損金に係る回収可能性についての検討が行われました。

c. [東京都が本年4月から導入した排出量取引制度](#)に関する会計処理についての検討が行われました。

事務局からは、会計処理の新たな取扱いを設けず、従来の実務対応報告第15号に準じた取扱いが可能と考えられるが、条例に基づく罰則規定が設けられていることから、場合によっては一般的な会計基準に従って引当金の計上又は偶発債務の注記が必要になると考えられるという説明がなされました。審議の結果、委員会として、事務局の説明の内容で、東京都排出量取引制度への対応とすることが了承されました。

d. 金融商品会計基準（分類及び測定）の見直しについての検討が行われました。

事務局からはIFRS第9号の測定区分モデルを基にした案が提示され、基本的には委員の同意を得られました。しかし、リサイクルについては、現在の取扱いを前提とした意見が幾つか出されています。

e. 社内開発費のうち一定の要件を満たすものを資産計上する場合について、買入れ、研究の外部委託、償却及び減損処理といった個別論点の検討が行われました。

f. IASBのIAS第37号再公開草案に対するコメント案が検討されました。

### 2) [第200回（2010年4月22日開催）](#)

- a. 平成22年度税制改正に伴う検討
- b. 企業結合専門委員会における検討状況
- c. 金融商品専門委員会における検討状況
  - ①（公正価値測定）

d. 金融商品専門委員会における検討状況

② (分類・測定)

e. 無形資産に係る検討

- a. 第 201 回委員会での公開草案議決を前に、特定連結欠損金について、連結財務諸表における回収可能性と個別財務諸表における回収可能性が異なる場合の取扱い等を中心に、文案の検討が行われました。
- b. のれんの償却に関連して、「減損損失判定時にのれんを分割するか」、「減損損失の認識の判定 (減損テスト)」、「減損テストの頻度」についての検討が行われました。
- 減損損失の認識の判定については、現行の 2 段階方式を継続する方向で検討されており、他の論点については、IFRS と同様の取扱いに改める方向で検討されています。
- c. 公正価値測定及びその開示に係る論点整理へのコメントを受けた、公開草案の文案の検討が行われました。
- d. 金融資産の分類・測定に関して、IFRS 第 9 号の取扱いをベースに区分することが事務局から提案されました。
- また、株式については、評価差額をその他の包括利益 (OCI) に表示する選択を認めこと、OCI で認識された評価差額のリサイクルを認めないこと、などが提案されています。しかし、リサイクルを認めないと提案に対しては、委員から否定的な意見が多く寄せられています。
- e. 無形資産に耐用年数を確定できない概念を取り入れ、国際的な会計基準と同様に償却しないことが事務局から提案されました。また、その場合に、のれんの非償却の場合と同様に、関連する無形資産の減損テストの頻度、減損損失の認識及び測定、減損損失の戻入等の課題があることが確認されています。

3) 第 201 回 (2010 年 5 月 17 日開催)

- a. 公開草案 改正実務対応報告「連結納税制度を適用する場合の税効果会計に関する当面の取扱い」(その 1) (その 2) (案) 【公表議決】
- b. 無形資産に係る検討
- c. 金融商品専門委員会における検討状況 (IASB 公開草案「金融商品：減損及び償却原価」)

- a. 平成 22 年度税制改正における連結納税制度等の一部改正を受けた連結納税制度に関する実務対応報告の見直しに関する公開草案の公表議決が行われました。
- b. 研究開発の成果を個別に買い入れる場合の取扱いについての検討が行われました。
- 買い入れた成果の支出が、研究に関する場合には発生時に費用処理し、開発に関する場合には自己創設無形資産の認識要件を満たす場合に限り資産計上する方向で検討が行われています。
- c. IASB 公開草案「金融商品：償却原価及び減損」のうち、測定原則に係る論点に対するコメントの検討が行われました。

IASB の公開草案が、識別される信用損失を当初取得時と事後測定時の 2 つの要素に分解し、前者の要素を残存期間に配分する一方で、後者の要素は一時に純損益に認識するという取扱いの不整合を指摘し、コメントすべき代替案の検討が行われました。

4) 第 202 回 (2010 年 5 月 28 日開催)

- a. 金融商品専門委員会における検討状況
- ① (公正価値測定)
- b. 無形資産に係る検討
- c. 金融商品専門委員会における検討状況
- ② (分類・測定)
- d. 金融商品専門委員会における検討状況
- ③ (IASB 公開草案：減損)

- e. 企業結合専門委員会における検討状況
- f. 特別目的会社専門委員会における検討状況

a. 公正価値測定・開示の適用範囲、現行の各会計基準等の時価に関する規定の取扱い等を中心に公開草案の文案検討が行われました。

b. 「借地権」の取扱いを中心に、耐用年数が確定できない無形資産の判断要件・償却可否、及び、耐用年数を確定できない無形資産に関する減損テストについての検討が行われました。

借地権については、普通借地権と定期借地権の違い等、その性質が様々であるため、借地権が耐用年数の確定できない無形資産に該当するか否かは、個別ケースごとに実質的な判断を行うこととされています。

c. 金融商品会計基準の見直しのうち、「公正価値オプション」、「保有目的区分の変更」及び「複合金融商品」の各論点についての検討が行われました。

いずれも IFRS 第 9 号の取扱いを検討の出発点とすることが考えられています。

d. IASB 公開草案「金融商品：償却原価及び減損」に対するコメントの検討が行われました。

e. 特定勘定と偶発負債の取扱いについての検討が行われました。

いずれも現行の取扱いを改め、IFRS の取扱いと同じ取扱いにする方向で検討が行われています。

f. 「特別目的会社の取扱い」について、従来から指摘されている拡大解釈の問題に対応するため、この規定の対象を資産の譲渡者のみにする方向での検討が行われました。

### 3. IASB 及び FASB に対する ASBJ のコメント (2010 年 4 月 1 日～2010 年 5 月 31 日)

- 1) [IASB 公開草案「IAS 第 37 号における負債の測定」に対するコメント](#)を提出 (2010 年 5 月 19 日)  
(公開草案の原文は[こちら](#))

### 4. [ASBJ プロジェクト計画表を更新](#)

企業会計基準委員会 (ASBJ) は、2011 年末までのプロジェクトの進行スケジュールを記載したプロジェクト計画表を更新し、2010 年 4 月 12 日に公表しています。今回更新したプロジェクト計画表においては、既存の差異に関するプロジェクト項目は、引き続き、2010 年中の完成を目指し、また、IASB と FASB との MoU に関するプロジェクト項目の多くのもについては、2011 年上期に公開草案の公表を目指しています。

### 5. [韓国ソウル市で開催された第 9 回 NSS 会議に西川委員長が出席](#)

2010 年 4 月 14 日と 15 日の 2 日間にわたり、韓国ソウル市にて第 9 回各国会計基準設定主体会議 (NSS 会議) が開催されました。韓国会計基準委員会 (KASB) 主催のもと、英国、米国、カナダ、フランス、ドイツ、オーストラリア、インド、マレーシア、南アフリカ等計 21 か国の会計基準設定主体と IASB や欧州財務報告諮問グループ (EFRAG) 等の関係機関から総勢約 50 名の参加がありました。ASBJ からは、西川委員長、加藤常勤委員、吉岡研究員の 3 名が参加しています。

本会議は、各国の基準設定主体が取り組んでいる研究プロジェクトを議論し、IASB の基準開発へのインプットやサポートを行

うことを目的とするものであり、今回は以下のテーマについて議論が行われました。

	議題	担当
<b>4月14日(水)</b>		
1	グローバルな金融危機と金融商品	英
2	無形資産：IFRS第3号適用からの経験	豪
3	IFRS第2号のレビュー・プロジェクト	仏
4	コーポレート・レポーティング・フレームワーク	PWC
5	開示フレームワーク	米
6	会計基準の影響分析	英、EFRAG
7	共通支配下取引	韓
<b>4月15日(木)</b>		
8	測定に関する概念フレームワーク	加
9	IASB/FASB 概念フレームワーク・プロジェクト	英、豪
10	IASB の作業計画	英
11	各地域からの報告	EFRAG、マレーシア、日
12	基準設定の望ましい質的特性	豪
13	各国の時事問題 (topical issue)	各国

冒頭で、IASB の Tweedie 議長から IASB における現在のプロジェクト全般の最新動向についての説明がなされ、その後に各テーマについて活発な議論が行われました。ASBJ からも各テーマに対して積極的に発言を行い、併せて、各地域からの報告において、9月に東京で開催される第2回アジア・オセアニア基準設定主体グループ (AOSSG) 会議の紹介も行いました。

今回の特徴としては、IASB と FASB における MoU プロジェクト完了後を見据えたテーマが多く、特にフレームワークに関連する議論が随所で行われました。次回は、今回議論された多くのテーマに加え、XBRL や農業の会計 (IAS 第41号) に関する論点についても議題に追加される見込みであり、2010年9月にイタリアのローマでの開催が予定されています。

## 6. ASBJ と IASB が第11回共同会議を開催

ASBJ と IASB (国際会計基準審議会) は、4月27日(火)、28日(水)の2日間にわたり、東京にて第11回の共同会議を開催しました。ASBJ からは西川委員長をはじめとする委員5名及びスタッフ、IASB からは Sir David Tweedie 議長をはじめとする理事3名及びスタッフが参加しています。当日の会議のスケジュール及び議題は以下の通りです。

日時	議題
4/27 午前	ASBJの活動のアップデート、 IASBの活動のアップデート
4/27 午後	日本でのIFRS導入に関する 問題点
午後 (公開)	金融商品(減損、ヘッジ会計)、 収益認識
4/28 午前 (公開)	財務諸表の表示、排出量取引

日本でのIFRS導入に関する問題点では、日本経団連と日本公認会計士協会を事務局とするIFRS導入準備タスクフォース及びASBJ内のIFRS実務対応グループで議論されたIFRSの解釈に関する問題に関して、意見交換を行いました。ASBJ と IASB は、この問題に対処するために引き続き協力を行うことを確認しております。

金融商品のセッションでは、IASB が昨年11月の公開草案で提案した減損の新たなモデル(予想損失モデル)について、ASBJ 側が行った分析とコメント、実行可能性に関する関係者の懸念等について議論しました。また、現在、IASB と FASB が共同で取り組んでいるヘッジ会計の改善に関して、ASBJ 側の現時点の予備的なコメントに基づいて議論しました。

収益認識のセッションでは、(a)移転時期の異なる財やサービスを含む契約（複数要素契約及び工事契約）における履行義務の識別並びに収益の認識及び測定、(b)資産・負債の変動に基づく収益認識の考え方、(c)製品保証の会計処理について、ASBJ 側の分析をもとに議論しました。

財務諸表の表示のセッションでは、直接法によるキャッシュ・フロー計算書についての ASBJ 側からの問題提起や、借入 (debt) カテゴリーだけでなく所有者持分 (equity) カテゴリーを財務セクションに含める表示についての議論を行いました。

また、日本において関心が高まっている排出量取引の会計処理についても議題に取り上げました。このセッションでは、IASB が現在審議を行っているキャップ・アンド・トレード・スキームに関する会計処理について、ASBJ 側からいくつかの会計モデルを提示して意見交換を行いました。

IASB 側からは、引き続きこのような議論を行うことを含む、IASB の活動に対する ASBJ からの貢献への期待が示されました。

次回の共同会議は、2010 年 9 月にロンドンで開催する予定です。

## 7. 第 1 回 ASBJ オープン・セミナーを開催

ASBJ/FASF では、国際的な会計の動きを迅速にフォローできる ASBJ ならではの最新情報の提供を行い IFRS 導入に向けての環境整備に貢献すること、及び、FASF 会員へのサービス向上を目的として、本年度より以下のような日程で“[ASBJ オープン・セミナー: IFRS の動向と我が国への導入](#)”を全国主要都市にて開催しています。

回	開催月	開催地	会場
1	4月28日	東京	よみうりホール (終了)
2	7月7日	大阪	大阪銀行協会
3	7月8日	東京	メルパルクホール
4	7月9日	名古屋	デザインホール
5	8月23日	福岡	天神ビル10号会議室
6	8月25日	札幌	札幌証券取引所ホール
7	11月2日	東京	(未定)
8	11月4日	大阪	大阪銀行協会
9	2月中旬	名古屋	(未定)
10	2月18日	大阪	大阪銀行協会
11	2月中旬	東京	(未定)

(注) 第 2 回から第 4 回については、(12) お知らせもご参照ください。

その第 1 回として、2010 年 4 月 28 日、Sir David Tweedie IASB 議長をはじめ IFRS の最前線で活躍中の 4 名を講師に迎え、「IFRS の最新動向と我が国への導入— Sir David Tweedie IASB 議長に聞く IFRS の最前線」を、東京・有楽町のよみうりホールにて開催しました。当日は 600 名を超える聴講者が来場されました。当日のプログラムは以下の通りです。

講演タイトル	講演者
IASB Update	Sir David Tweedie IASB 議長
IASB プロジェクトの概要	Warren McGregor IASB 理事
IFRS に対する我が国の対応	内藤 純一 金融庁総務企画局長
ASBJ Update	西川 郁生 ASBJ 委員長

講演の中で Tweedie 議長は「単独の一組の高品質なグローバル会計基準を作成する」という IASB のミッション遂行を熱弁し、その為に、日本がパートナーとして

積極的に意見発信することへの期待感を訴えました。

McGregor 理事は、現在、最も注目を集めている「収益認識」と「退職後給付」について IASB での検討状況を掘り下げて解説を行いました。

内藤局長は、日本における IFRS 導入対応の現況の説明を行い、「IFRS 導入は金融外交の一つと考えて、日本として積極的に参加していく」との意思表示が行われました。

最後に登壇した西川委員長は、IFRS に対する ASBJ の直近の活動状況報告を行いました。

各講演には Q&A セッションを設けましたが、フロアからは IFRS 導入を視野に入れた質問が多く寄せられ、講師との間で活発な意見交換が行われました。

なお、本セミナーの様子は、FASF 会員の皆様には [ASBJ Web セミナー](#) にて映像とともにご覧頂けます (8月20日までの期間限定配信となります)。

## 8. シンガポールで開催された第 4 回 [IFRS リージョナル・ポリシー・フォーラム](#) に西川委員長が出席

2010 年 5 月 13 日、シンガポールで第 4 回 IFRS リージョナル・ポリシー・フォーラムが開催されました。本フォーラムは、会計基準と銀行監督規制や法人税法を初めとした規制との関係について、会計基準設定主体と規制当局を含む関係者が一堂に会して、議論することを目的とするものです。

今回のフォーラムは、シンガポール会計基準委員会 (ASC) 主催により、アジア・オセアニア地域 12 カ国の会計基準設定主体及び規制当局等から 100 名を超える参加者が集まりました。また、IASB からは

Tweedie 議長、山田理事、国際関連ディレクターが参加した他、IASCF 財団のトラスティーからは、Glauber 氏 (米国)、Lucy 氏 (オーストラリア)、Pai 氏 (インド)、島崎氏が参加しました。ASBJ からは西川委員長及びスタッフ 1 名が参加しました。

フォーラムの冒頭、開催国であるシンガポールの首相室 Lim Hwee Hua 大臣等からスピーチがあった後、Tweedie 議長から会計基準のコンバージェンスに向けた IASB による取組みについて説明が行われました。また、Glauber トラスティーから、米国における最近の動向等について説明が行われた他、IMF の担当者より、中央銀行や規制当局に対する財務報告の有用性について説明が行われました。

その後、会計基準と銀行監督規制や税法との関係等について説明が行われた上で、財務報告の表示の在り方、IFRS の採用 (adoption) と収斂 (convergence) に関して、それぞれの意味するところについて、パネル・ディスカッションが行われました。日本からは、西川 ASBJ 委員長が「財務諸表の表示の在り方」について、長岡金融庁国際会計調整室長が「IFRS の採用と収斂」について、パネル・ディスカッションに加わりました。

最後に、IASCF トラスティーの活動について近況の説明が行われた他、フォーラム参加者と IASCF トラスティー、IASB 理事との間で質疑応答・意見交換が行われました。

今回のフォーラムでは、アジア・オセアニア地域において IFRS の採用やコンバージェンスに向けて取組みを進めるに当たって、同地域内の諸国で連携する等の上で、IASB に意見発信していくことの重要性等が確認されました。

次回会合は、2011 年中に開催予定です。

## 9. FASF セミナー「四半期報告書の作成要領」を開催

2010年5月18日から5月28日までの間、東京（3回）、大阪、名古屋、札幌、仙台、金沢、広島、高松、福岡の全国9か所11回にわたって「四半期報告書の作成要領（平成22年6月第1四半期提出用）」のセミナーを開催し、延べ3,300名の参加申込みがありました。

今回のセミナーでは、2010年4月1日より適用となる新しい「セグメント情報」に関するポイントについて、記載事例を基に解説し、また、提出会社が行使価額修正条項付新株予約権付社債券等を発行している場合の記載事例、指定国際会計基準により四半期連結財務諸表を作成している場合のポイントについて説明を行いました。さらに、前事業年度の有価証券報告書を定時株主総会前に提出した場合の留意点についても解説しました。また、当セミナーでは、ASBJから「企業会計基準委員会の活動状況についてーIASB作業計画を踏まえたASBJのプロジェクト計画表の更新ー」の説明も行いました。

## 10. FASF 理事会を開催

FASFでは、2010年5月20日に理事会を開催し、以下の内容を審議・決議しています。

- 第10期（2009年11月2日～2010年3月31日）事業報告
- 第10期（2009年11月2日～2010年3月31日）決算
- 企業会計基準委員会委員の選任  
企業会計基準委員会委員1名の後任者を選任しました。（以下、敬称略）

<選任委員>

関根愛子	あらた監査法人代表社員
------	-------------

<就任予定日 7月8日>

<退任委員>

小宮山賢	あずさ監査法人代表社員
------	-------------

<退任予定日 7月7日>

- 基準諮問会議委員の選任  
基準諮問会議委員3名の退任に伴う後任者を選任しました。

<選任委員>

篠原 真	新日本有限責任監査法人 シニアパートナー
手塚仙夫	有限責任監査法人トーマツ パートナー
森 公高	あずさ監査法人代表社員

<就任予定日 7月8日>

<退任委員>

友永道子	新日本有限責任監査法人 シニアパートナー
市川育義	有限責任監査法人トーマツ パートナー
関根愛子	あらた監査法人代表社員

<退任予定日 7月7日>

- 企業会計基準委員会報告  
西川委員長より、中期運営方針等について報告が行われました。



## 11. プロジェクト進捗（2010年5月31日現在）

	2010 Q2	2010 Q3	2010 Q4	2011 H1	2011 H2
<b>既存の差異に関連するプロジェクト項目</b>					
企業結合（ステップ2）		ED	Final		
財務諸表の表示（包括利益）	Final				
無形資産		ED	Final		
<b>IASB/FASBのMoUに関連するプロジェクト項目</b>					
1 連結の範囲				ED	Final
2 財務諸表の表示 （フェーズB関連） （非継続事業）			DP ED	ED Final	
3 収益認識			DP	ED	
4 負債と資本の区分			DP		
5 金融商品 （金融資産の分類と測定）	DP2			ED	
（金融負債の分類と測定）		DP 又は DP2		ED	
（減損）				ED	
（ヘッジ会計）				ED	
6 公正価値測定・開示	ED		Final		
7 退職給付 （ステップ1）			Final		
（ステップ2）				DP	ED
8 リース		DP		ED	
9 認識の中止			DP	ED	
<b>IASB/FASBのMoU以外のIASBでの検討に関連するプロジェクト項目</b>					
1 株当たり利益*		Final			
引当金				DP2	ED
排出権				DP	
保険					

\*：既存の差異等に関する改正

[適用]

- DP 論点整理
- DP2 検討状況の整理（会計基準等の方向性を示すことを目的に公開草案の前に文案に近い形で公表するもの）
- ED 公開草案
- Final 会計基準/適用指針（最終版）

斜体文字は終了したイベントを表しています。

## 12. お知らせ

### 1) 刊行物のご案内

機関誌「季刊 会計基準」第 29 号 (2010 年 6 月 15 日刊行)

#### 【主な内容】

- ✓ 特集 1: “国際的な会計基準設定の最前線”
  - IASB の最新の作業計画について…山田辰己 IASB 理事他
- ✓ 特集 2: 退職給付会計の動向を読み解く
  - 座談会他
- ✓ Accounting Square: “IFRS の影響と中小企業の会計” …安藤英義 専修大学商学部教授
- ✓ CFO Letter: “財務部門の課題と人材育成について” …宮崎秀樹 日本たばこ産業(株)執行役員
- ✓ Chairman’s Voice: “ASBJ の進路” …西川郁生 ASBJ 委員長
- ✓ 特別企画 1: Sir David Tweedie IASB 議長を迎えて セミナー・レポート他
- ✓ 特別企画 2: Stig Enevoldsen EFRAG 議長 (前) を迎えて セミナー・レポート他

※ご購入は[こちら](#)。

### 2) ASBJ オープン・セミナー: IFRS の最新動向と我が国への導入 (第 2 回~第 4 回) のご案内

前出のように ASBJ では、本年度より IFRS 開発の最新動向や IFRS 導入に向けての我が国の活動状況に関する情報を提供するセミナーを全国各地にて延べ 11 回開催を致します。このうち、現在、第 2 回から第 4 回セミナーの参加者を募集中です。

- 第 2 回 (大阪):
  - 2010 年 7 月 7 日 (水) 13 時 30 分~17 時 00 分
  - (会場) 大阪銀行協会
  - (主な講師) 西川郁生 ASBJ 委員長 他
- 第 3 回 (東京):
  - 2010 年 7 月 8 日 (木) 13 時 30 分~17 時 00 分
  - (会場) メルパルクホール東京
  - (主な講師) 山田辰己 IASB 理事 他
- 第 4 回 (名古屋):
  - 2010 年 7 月 9 日 (金) 12 時 30 分~16 時 00 分
  - (会場) デザインホール
  - (主な講師) 新井武広 ASBJ 副委員長 他

プログラム等の詳細、及び、参加のお申込みは、[こちら](#)からご覧頂けます。皆様のお越しを心からお待ち申し上げます。

### 3) “日印フォーラム 2010” のご案内

ASBJ/FASF、日本公認会計士協会、日本経団連及び東京証券取引所グループは、IFRS 導入準備の一環として、日本とインドが互いの知識・経験を共有するため、市場関係者により構成される日印ダイアログを定期的に開催することに致しました。そして、本ダイアログの活動をより多くの皆様にご理解頂くために、両国のキーパーソンをスピーカーに招いた“日印フォーラム 2010 ~資本市場と IFRS 導入の課題~”を開催致します。日本とインドの資本市場変革の最前線に触れることができる絶好の機会です。7 月上旬よりご参加の一般募集を開始する予定です。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

す。

【開催概要】

- 日時：2010年7月27日（火） 9時  
30分～20時00分
- 会場：経団連会館 「国際会議場」  
プログラム等の詳細、及び、参加のお申込みは、追ってASBJ/FASFホームページにてお知らせいたします。

4) “IFRS カンファレンス：東京 2010”  
(IASCF 主催) が開催

7月28日（水）から29日（木）、マンダリン オリエンタル 東京にて、IASCF (国際会計基準委員会財団) 主催の“IFRSカンファレンス：東京”が開催されます。同カンファレンスは、IFRS開発の現状やIFRS導入に向けての活動などについて網羅的に学ぶことができるプログラムとなっています。スピーカーには、IASBの理事及びスタッフに加え、三國谷勝範 金融庁長官をはじめ第一線で活躍中の方々も予定されています。詳細プログラム及び参加申込は、[こちら](#)をご覧ください。なお、7月1日までの参加申込には早期割引が適用される特典もございます。

“ASBJ Newsletter” (第15号)

2010年6月18日発行

発行：企業会計基準委員会／

公益財団法人 財務会計基準機構

東京都千代田区内幸町 2-2-2

富国生命ビル 20階

編集・発行人：丸山顕義

制作：広報プロジェクトチーム

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail：[publicity@asb.or.jp](mailto:publicity@asb.or.jp)

Fax：03-5510-2712